

チャイナビジネス 時代

日系有力OEM企業

日系有力OEM(相手先ブランド生産)企業は、安定した生産能力確保とODM(相手先ブランドによる設計・生産)など企画提案力の向上が担うポイントとして、自社工場や協力先工場による生産体制整備に加え、人材育成や企画提案力の強化を進めている。

ニットや布帛で有力生産工場と取り組み安定した生産基盤を築いているのがサンマリノ(東京)。今年度はアパレル生産のプロ集団を目標し、社内の勉強会開催などに取り組む。日営業務が多忙になりスピードアップしている中、意識して生産知識を学び生産工場に対して適切な指示や対応が出来る人材育成を図るのが目的だ。

エムケイシエイ(同)は生産体制強化策の一貫として、14年5月に安徽省蚌埠市に新たな生産拠点を稼働する。これは出資先ニッタの無錫太平針織が現地との共同出資で進出するも

華東で生産力増強 ODMなど企画提案力つける

の。従業員250人、自動機30台、リンキング工80人の体制で初年度20万枚、将来的には50万〜60万枚のセーター生産を目指している。

上海の日系縫製工場3社を買収し、今年からグループ企業として生産体制を強化したのは高級婦人服製造

のマッコニーホールディングス(同)。

3社はいずれも旧四国フーイング傘下の上海青菱高級時装、上海森山制衣、四国時装。これにより欧米に向けた高級婦人服受注の拡大に対応する。

大東紡織は、14年度を初年度とする3カ年の中期経営計画で、素材・デザイン提案型OEMをニット企画提案型OEMとともに、強化事業に位置付けた。杉杉集団との合併の寧波杉京服飾は、05年9月の設立以来、日本人技術者による徹底した品質管理の下、メンズクローキングを中心に生産してきた。最近ではディスプレイエアの生産と販売も行っている。

中国事業はコスト増や円安で苦戦を強いられている。東南アジアに注目が集まっているが、工員の力不足や距離的な問題が阻害要因になっていると大東紡織はみている。そのため素材開発力とODMを強化すれば、中国生産でも存在感を發揮できると判断。日本人スタッフを増やしている。